

病害虫発生特殊報（第1号）

平成5年4月30日
東京都病害虫防除所

病害虫名：ミカンキイロアザミウマ

1. 発生状況

- (1) 本年4月中旬、都内施設花きで発生したアザミウマを同定した結果、複眼後方第4刺毛が特に長いなどの特徴からミカンキイロアザミウマであることが判明した。4月下旬までの発生地点数は、少ないものと思われる。
- (2) 侵入経過は不明であるが、すでに平成2年に千葉や埼玉など近県での発生が確認されている。
- (3) 本種が好んで寄生する部位は果樹では果実で、花き類では花、新葉である。
- (4) 本種は寄主植物が極めて多いため、今後発生地域、発生作物が更に拡大すると共に、被害の拡大も予想される。

2. 学名、形態及び生態学的特徴

(1) 学名：

Frankliniella occidentalis Pergande (Western flower thrips)

(2) 形態

雌成虫：体長は1.4～1.7mm、体色は黄色で、腹部に褐色斑がある。

雄成虫：体長は1.0～1.2mm、体色は明るい黄色である。

花き類やミカンの果実には、多くの種類のアザミウマが寄生するが、これらと本種を肉眼で区別するのは難しい。特にヒラズハナアザミウマは、本種に極似する。種の同定は病害虫防除所や試験場に相談する。

(3) 生活史

- 1) 本種は卵から、1齢幼虫、2齢幼虫、1齢蛹、2齢蛹を経て成虫となる。
- 2) 卵から成虫までに要する日数は夏季で約2週間である。
- 3) 卵は、花弁などの組織内に1個ずつ産みつけられる。ふ化した幼虫は植物表面に出て、直ちに食害を始める。幼虫は主に花弁や新芽や新葉の間に生息する。蛹の時期が近づくと、幼虫は地表に移動し、土中や落葉中で蛹となる。
- 4) 成虫になると再び花弁、新葉、新芽に移り、これらを加害する。成虫はふ化3日後頃から産卵を開始する。成虫の寿命は30～40日で、この間に150～300卵を産む。

(4) 寄主植物

寄主範囲は極めて広く、外国の報告事例を含めるとシクラメン、インパチェンス、ガーベラ、キク、カーネーション、カトレアなどの花き類、イチゴ、ト

マト、メロン、キャベツなどの野菜類、ミカン、モモ、ブドウ、ビワなどの果樹類など50科200種に及ぶ。

(5) 被害

本種は鋭い口器で花、葉、芽、果実の表面から汁液を吸汁する。ガーベラやキクなどの花き類では花卉の退色、褐変奇形を起し、新葉では萎縮、奇形を起し、商品価値を落とす。

3. 防除対策

- (1) ミナミキイロアザミウマなどと同様に、欧米では有機リン、カーバメート更に合成ピレスロイドに対する感受性が低下し、防除が困難なため重要害虫になっている。
- (2) 有効農薬としてはDDVP乳、オルトラン水和、パダン水和、エビセクト水和、トクチオン乳、ノーモルト乳、エンセダン乳、スミロデイ乳、ダズバン乳40、ピニフェート乳などのほかDDVPくん煙剤などが有効である。ただし作物により、適用薬剤や散布濃度が異なる上、薬害が生じるものもあるので発生を認めたら、病害虫防除所の指導を受ける。シクラメンに登録のあるエビセクトは花およびつぼみの時期に薬害を生じやすい。
- (3) 未発生地では特に既発生地からの苗の持込みに注意する。
- (4) 侵入を防ぐため、施設では開口部に寒冷紗(300番、白色)を張る。
- (5) 成虫は白色、黄色、青色に誘引されるので、それらの色の粘着板で発生の有無や発生量を把握できる。